

## 第4回体の動きを高める運動領域部会記録

参加者 畠中 岡田 山本 関川 坪根 東 鈴木 古川 戸澤 濱須 土屋 高岡 藤井 大川

### I 自己評価の捉え方について

#### (I) 第4回正副長会資料

## 研修Ⅳ資料

### 1 体の動きを高める運動領域部会における「自己評価」の捉え方

一人一人が自己の体の動きを高めるために、学習課題を解決する過程の様々な場面で、学習課題や解決方法が自分に合っているかを、必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。

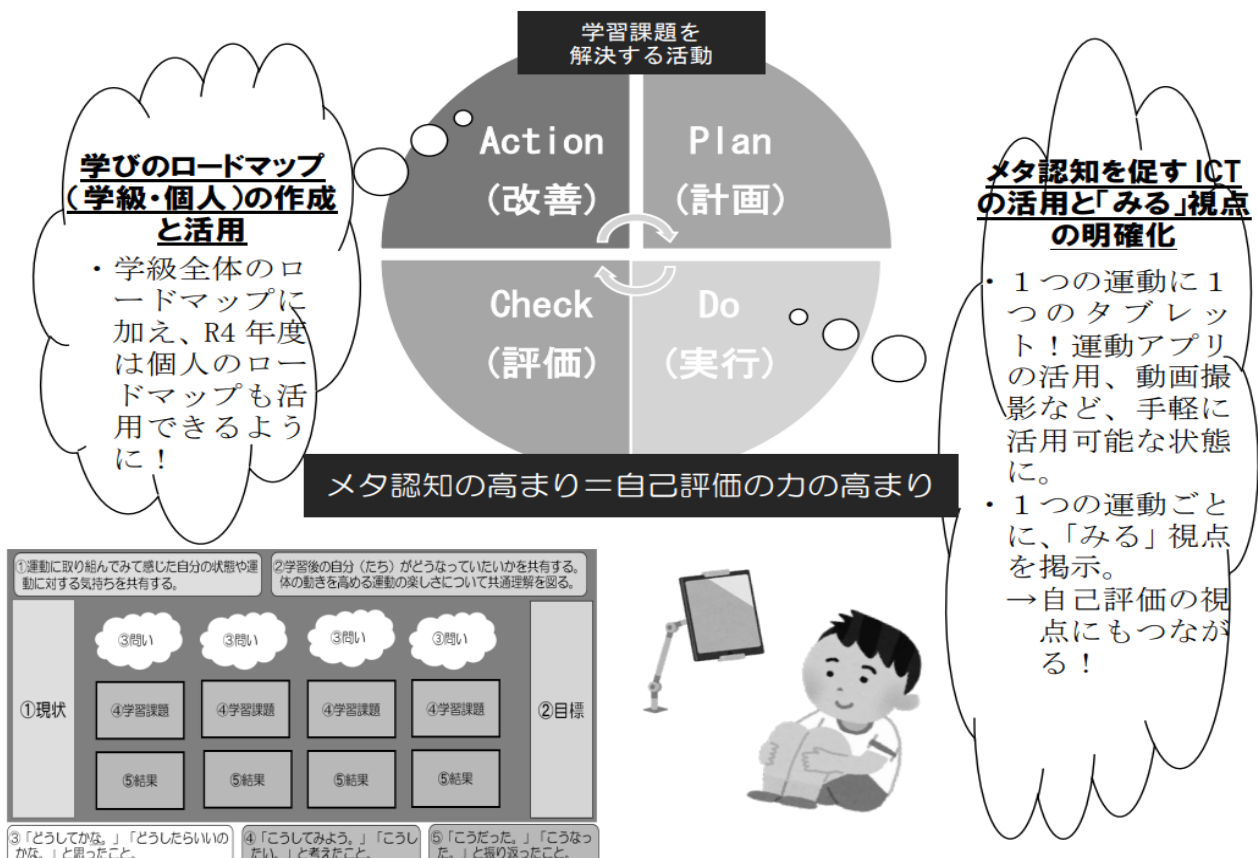
一人一人が自己の体の動きを高めるために、  
学習課題を解決する過程の様々な場面で、  
学習課題や解決方法が自分に合っているかを、



**なぜ**自己評価するのかな？  
いつ自己評価するのかな？  
**何を**自己評価するのかな？

「**なぜ**運動・自己評価をするのか」「**何を**運動・自己評価するのか」などの目的意識や必要感につながる疑問を明らかにすることが、子供が「する」自己評価活動につながると考える。子供自身が「なぜ?」と目的を問うことが「何を」と問題を見いだしていくことにつながる。「問い→学習課題→運動→自己評価」のスパイラル。

### 2 (6) 子供自身が自己評価の力を高めていくための手立ての工夫



## 2 実証授業①指導案説明

### 体の動きを高める運動領域部会 実証授業①（部内授業）

#### 1 体の動きを高める運動領域における自己評価の捉え方

一人一人が自己の体の動きを高めるために、学習課題を解決する過程の様々な場面で、学習課題や解決方法が自分に合っているかを、必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。



なぜ自己評価するのか？  
いつ自己評価するのか？  
何を自己評価するのか？

（なぜ）一人一人が自己の体の動きを高めるために、  
（いつ）学習課題を解決する過程の様々な場面で、  
（何を）学習課題や解決方法が自分に合っているかを、  
（どのように）必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。

◎自己評価活動を含んだ学習課題を解決する活動

「やってみる→問い→学習課題→運動→自己評価（学習課題や解決方法について）」のスパイラル。

子供の思いや願いを喚起し、子供自身がやってみて感じた問いをもとに学習課題を設定していくことで、子供一人一人が学習課題を見だし、体の動きを高めていく学習を実現することができる。  
「なぜ運動・自己評価をするのか」などの目的意識や必要感が「いつ・何を運動・自己評価するのか」などの課題につながり、子供が「する」自己評価活動につながると考える。子供自身が「なぜ？」と目的を問うことが「いつ・何を」と課題を見いだしていくことにつながる。

#### 2 実証授業①（部内授業）で明らかにしたいこと

##### （1）自己評価の力が高まる第5学年の学習過程

子供一人一人の学習課題に応じて、取り組む動き、一単位時間に取り組む動きの数、時間配分を選択することができるような学習過程を作成する。このような学習過程の工夫により、自己評価の力を高めることができるかどうかを明らかにする。

##### （2）個別最適な学びと協働的な学びの一体化

令和3年度の研究では、一人一人が自分の学習課題を見だし、解決する学習を実現することができた。令和4年度は、一人一人の学びを学級全体で共有し、協働的な学びへと発展させるための手立てについて明らかにする。

##### （3）一人一人が自ら深い学びを実現するための指導と評価

多様な学習課題が混在する中で、どのように子供の学習状況を評価し、指導と評価を一体化させていくのかを明らかにする。（二学期の実証授業）

#### 3 学習指導案

##### （1）実証授業実施校等

府中市立府中第六小学校

第5学年2組 児童：32名 指導者：主任教諭 坪根 裕也

#### （2）単元名 体づくり運動「体の動きを高める運動」

#### （3）単元の目標

|              |                                                                        |
|--------------|------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び運動       | ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。           |
| 思考力、判断力、表現力等 | 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝えることができるようにする。           |
| 学びに向かう力、人間性等 | 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 |

#### （4）単元の評価規準

|               |                                                                    |
|---------------|--------------------------------------------------------------------|
| 知識・技能         | 体の動きを高める行い方を理解するとともに、体の柔らかさや巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力を高めることができる。       |
| 思考・判断・表現      | 自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりするとともに、動きのポイントやコツについて仲間言葉や動作で伝えている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。      |

#### （5）児童の実態

自己評価をする機会は多くあり、程度は違うが全員が自己評価をしているものと思われる。表出されている姿としては、運動に取り組んでいる際のつぶやき、仲間との話し合い、助言、タブレット端末との向き合い、運動への取り組み方の変容などが挙げられる。

しかし、全員に同等の自己評価をしている姿が見られるわけではない。仲間との話し合いに参加しようとしていない、自分の動きを客観的に見ようとしていない、気の合う友達がいる場に固執するなど、自己評価をする力には差が見られる。

自分自身あるいは仲間とともに自己評価活動を進んで行う姿も見られる反面、なかなかその姿が見られないという二極化の実態があると言える。

#### （6）子供自身が自己評価の力を高めていくための手立ての工夫

##### ① 自己評価の力を高めるための学習過程の工夫

第5学年では、第4学年までの多様な動きをつくる運動（遊び）の経験をもとに学習を進めていく。その際、第1時で「やってみる」時間を設定し、児童がそれぞれの学習経験を想起し学習していくなかで、児童がもった「問い」をもとに、一人一人が学習課題を見出し、解決していくような学習過程を設定した。児童が学習課題を見出すことで、そのことについて自己評価する必要感を感じながら学習を進めることができると考えた。その後、教師や仲間とともに、「体の動きを高める運動の特性」や「体の動きを高める運動の学び方」を確かめながら、学習課題を解決していく。「問い

をもつ」⇒「学習課題を見出す」⇒「運動に取り組む」⇒「自己評価する」⇒「問いをもつ」…といったような学習を繰り返すことで子供自身が自己評価する力を高めていけると考えた。

##### ② 自己評価の力を高めるための個別最適な学びと協働的な学びの一体化

一人一人の学習課題を見出す力に応じて、教師がより適切な働きかけをすることはたいせつである。教師は、学習資料を提示したり、学習の視点を示したりすることで、「学習課題を見出す力」が高まっていくと考える。「学習課題を見出す」とともに、「自己評価する力」を伸ばすには、個別最適な学びと協働的な学びを一体として学習を進められるようにしていく。本部会で、「学びのロードマップ」を活用しながら、一人一人の学び方を共有してきた。本年度は、自己評価の力を高めるために、「学び方」「高まりの実感」等を、ICT機器を活用しながら共有できるようにしていく。

##### ※その他

- 自己評価の力が高まりやすいような「運動例」の精選、提示

⇒児童が取り組む運動については、「運動の楽しさを味わうことができること」「高まりの動きが明確であること」「工夫の善し悪し分かりやすいこと」「高まりの実感がしやすいこと」の4つの視点を大切に開発してきた。体の動きを高める運動が始まる第5学年では、児童が自己評価の力が高めやすくなるように、計画的に運動を提示していく。

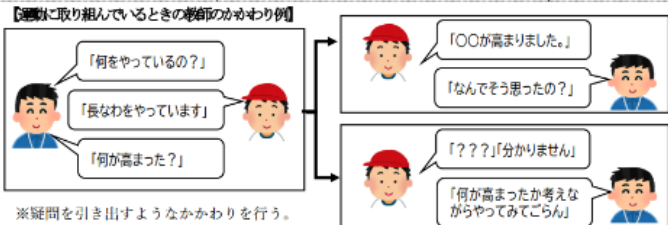
(7) 学習過程 < 第5学年 体づくり運動 「体の動きを高める運動」 >

| 時間      | 1                                                                                                                             | 2                       | 3～6（本時は第5時）                                          | 7・8                                                   | 9・10                           |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 段階      | 問いをもち、学習課題を出す                                                                                                                 |                         | 「体の動きを高める運動」の学び方を加え、課題を解決する。                         |                                                       | 学んだことを活用し、自己の体の動きを高める          |
| 学習活動・内容 | 1 集合・整列・挨拶                                                                                                                    |                         |                                                      |                                                       |                                |
|         | 2 これまでの経験を振り返る                                                                                                                | 2 前時にもった問いを共有する         | 2 自分の学習課題や学級のロードマップを確認する。                            |                                                       |                                |
|         | 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る                                                                                                   | 3 準備運動                  | 3 準備運動                                               |                                                       |                                |
|         | 4 準備運動                                                                                                                        | 4 問いに対する答えを考えながら運動に取り組む | 4 巧みな動きを高める運動に取り組む                                   | 4 体の柔らかさを高める運動に取り組む                                   | 4 体の動きを高める運動の動きを選択して取り組む       |
|         | 5 体の動きを高める運動をやってみる                                                                                                            | 5 整理運動                  | 3・4時<br>長縄（タイミング）<br>ボールドリブル（力加減）<br>パンプーステップ（リズムカル） | 5・6時<br>平均台（バランス）<br>ボールキャッチ（力加減）<br>リズムカルコース走（リズムカル） | 運動要素、取り組み動き、運動の数、時間配分などを自分で決める |
|         | 6 運動を通しての問いをもつ                                                                                                                | 6 学習課題を見いだす             | 5 力強い動きを高める運動（7時）<br>動きを持続する能力を高める運動（8時）に取り組む        |                                                       |                                |
|         | 7 整理運動                                                                                                                        | 7 学級のロードマップ作りをする        | 6 整理運動                                               |                                                       |                                |
|         | 8 振り返り                                                                                                                        |                         | 7 振り返り                                               |                                                       | 6 振り返り                         |
|         | 扱う運動<br>巧6 長縄、ボールドリブル、パンプーステップ<br>平均台、ボールキャッチ、リズムカルコース走<br>柔3 ボール転がし、ゴム紐くぐり、輪くぐり<br>力3 プッシュアップ、自分は運び、跳び箱ずもう<br>持2 エアロビクス、ペース走 |                         | 5 整理運動<br>6 振り返り                                     |                                                       |                                |

(8) 本時の学習 (5/10)

- ① 本時のねらい  
学習課題を解決するために、自己の体力に応じて巧みな動きを高める運動に取り組むことができる。

② 本時の展開

| 学習活動                                                                                                                                          | ○教師のかかわり ◎配慮児童への支援                                                                                                                | □評価                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 1 集合・整列・挨拶                                                                                                                                    |                                                                                                                                   |                                          |
| 2 自分の学習課題や学級のロードマップを確認する。                                                                                                                     | ○児童の学習カードから「問い」「学習課題」「結果」を共有する。                                                                                                   | □自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。    |
| 3 準備運動と場の準備をする。                                                                                                                               | ○部位を意識させるよう声をかける。<br>○物を運ぶ際の安全面について指導する。                                                                                          | (運動・発言)<br>□動きのポイントやこつについて仲間言葉や動作で伝えている。 |
| 4 巧みな動きを高める運動に取り組む。<br>【取り組む動き】<br>○長なわ ○ボールドリブル<br>○パンプーステップ                                                                                 | ○本時で取り組む動きのものと動きを伝えてから運動するようにする。<br>○子供に問いかけることを意識してねらいに迫れるようにする。<br>◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、自分や友達の見え方を客観的に見ることや、友達との相談をすすめるようにする。 | (運動・発言)                                  |
| <p>【運動に取り組んでいるときの教師のかかわり例】</p>  <p>※疑問を引き出すようなかわりを行う。</p> |                                                                                                                                   |                                          |
| 5 整理運動・片付け                                                                                                                                    | ○各部位を意識して運動するように声をかける。                                                                                                            |                                          |
| 6 振り返りを行う。                                                                                                                                    | ○活動を通して感じたことを振り返るように促す。<br>○課題解決の進捗状況を聞き、次回の見通しをもたせられるようにする。                                                                      |                                          |

### 3 各グループの協議後

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A グループ | <p>第1・2時の運動例について、5年生の始めの段階で14つの運動全てを扱うことができるのか？ここは、巧みに限定してもよいのではないかな？</p> <p>体の柔らかさを高めるための運動や動きを持続する能力を高めるための運動については、運動の行い方が複雑ではないので、行い方を家庭学習で扱うこともできるのではないかと考えた。</p> <p>ロードマップで、体の柔らかさを高めるための運動や体の動きを持続するための運動についても触れるのか気になった。</p> <p>第1・2時間目の学習に行った運動や見いだした問いが、3時間目の運動がずれた場合はどうするのか？</p> <p>ロードマップについて、第3・4時間目に扱う運動は、ローブマップに価値付ける視点で運動を分けた方がよい。「目的」「ポイント見付け」「かかわり」の視点で運動を選んだ方がロードマップ作りはしやすいのではないかな？</p> <p>7・8時間目について、力強い動きを高めるための運動体の柔らかさを高めるための運動は1時間しか触れないのか？</p> <p>自己評価の捉え方について、自己評価の高まりが学習過程に入れられるとよい。</p> <p>本時について、支援のところの友達との相談を促す問いかけについては、言葉かけが必要。</p> <p>運動に初めて触れる第5時の学習で、高まりの実感を得ることができるのか？第5時は、高まりの実感よりも、運動のポイントの発見になるのではないかと考える。</p> <p>本時の教師のかかわり例のところは「何をやっているの？」ではなく「やってみてどうだった？」ではないかな？</p> <p>ジャムボードでのポイント共有は有効だと思うので、実際に使っている姿が見てみたい。</p> |
| B グループ | <p>本時の中で、子供たちが共有する場面はあるのか？「目的」「行い方」「実感の仕方」について共有する必要があるのではないかな？</p> <p>マイスタート・マイゴールという運動の特性から、子供たちがお互いを見合うという必要感が生まれにくいのではないかと考えた。</p> <p>よい自己評価の捉えとは何か？子供自身からスタートするものであり、自分の動きを見つめて、見通しをもって自己選択していく過程や姿なのではないか。子供の自己評価の姿をどのように見とるか？「なぜやったの？」「なぜ、その運動の行い方がよかったの？」などの教師の問い返しが大切。</p> <p>自己評価する子供の姿を部会でどのように捉えていくか話し合う必要がある。</p> <p>「やってみて楽しい」から「動きが高まって楽しい」に転換していくためには、どのようなしかけが必要か考えていく必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| C グループ | <p>本時を巧み限定で行っていくことも一つの学習の仕方であると考えた。</p> <p>運動のポイントをどこで、どのように共有するかが気になった。ジャムボードを活用するのか？5年生の時点でどの程度抑えるのかも気になった。</p> <p>本時に向けていくために、第1時をどのように行うか変わっていくのではないかな？プロモーションビデオの作成も変わってくると考えた。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

#### 4 各グループの発表を受けて

子どもたちが自己評価している姿を部会でどのように捉えていくか検討していく必要がある。

自己評価している姿は無数にあるが、いくつかピックアップしていくことも必要なのではないかな。  
ジャムボードの活用は興味がある。

#### 5 質問

Q. 第1・2時で14の運動を全て扱うのか？

A. 運動例は絞っていききたい。運動の要素としても、巧みに絞ることも一つの考え方だと感じている。

Q. 第3・4時間目の運動はどのような目的で扱う内容としたか？

ロードマップで価値付けていく視点で運動を選んだ方がよいのではないかな？

長なわとバンブーステップは、グループで行うので同じ時間に扱うのではなく、ずらして扱った方が、前半で扱った運動の学び方を後半に生かせるのではないかなと考えた。

例えば前半の長なわで身に付けたかわり方（学び方）を、後半のバンブーステップに生かしていく。

運動を扱う捉え方で、ロードマップの目的や学習課題を見だしやすいことなどを踏まえると運動は選べてくるのではないかな。ロードマップで何を価値付けていくのかの関係で運動を選んでいくとよいのではないかな？

A. 意見を参考に考えていく。

Q. 7・8時間目の運動内容「柔らかさ」「力強さ」「持続」について？

A. 体力の4要素は入れていく必要があると考えた。

第2時の最後に「柔らかさ」と出会わせて、第3時以降は帯で活動時間を設定し、第7・8時は「力強さ」と「持続」を扱えばそこまで無理な感じではない。実証授業の子供の様子を見て、「柔らかさ」の運動例について検討していく。

Q. 「何やっているの？」という発問は「やってみてどうだった？」ではないかな？

A. 「何やっているの？」は第1時での言葉かけ。本時では「やってみてどうだった？」をきっかけにしていきたい。

Q. 第3・4時で3つの運動を扱う時間の学習活動として、進め方のイメージはもった方がよい。第3・4時と次の第5・6時の進め方を同じような流れにするのか？別にするのか？今後確かめていきたい。

Q. 第1・2時での内容が多い ロードマップを作成するのは難しいのではないかな？

A. 少しずつロードマップを作成していくことも考えている。

5年生でロードマップの作成の仕方を学ぶ捉えでもよいのではないかな？

現状と目的がはっきりしていれば、ロードマップは作成できる。

個人のロードマップと学級のロードマップを分ける必要があるのか？分けた方が分かりやすいのか？

今後、整理していく必要がある。

学習カードは、自己評価をする視点で今年度リニューアルしていきたい。

マイスタートマイゴールという視点を大切にしているうえで、ポイントの共有をどのような捉えで進

めていくかは重要だと考える。昨年度も6年生の実践ではあったがポイントの共有は大切であった。

全体で何を共有するかは自己評価の視点にもなってくるので、全体の第1・2時で何を抑えるのか？第3・4時で何を抑えるためにどの運動を扱うのか？については今後考えていかなければいけない。教師として、ある程度どの時間までに何を抑えておかなければいけないということを意図していかなければ、子供が自己評価するという行動が多岐に渡りすぎてしまうので、子供の姿が見取りにくくなるのではないかと考える。

## 6 宿題

- 自己評価力を高めるための学習集カード
- 単元を通した他者とのかかわり方について

## 7 次回

6月20日（月）18時30分～20時00分 豊島区立池袋本町小学校  
「実証授業①に向けて・・・授業内容 手立てについて」（専門委員会）